

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

お薬は必要です

よく西洋医学の処方薬をけがらいうる話を耳にします。本来、お薬はできる限り使わない方が良いと思いますが、健康を取り戻すために使うべき時は、是非使ってほしいです。

もし、自分の小さな子供さんが風邪を引いて高熱があるのに、お薬は好ましくないといって服用しなければ、場合によっては肺炎を起こし死亡することもあります。解熱剤（実際は消炎解熱鎮痛剤）を使って熱を下げれば、身体はとても楽になるので、ご飯を食べ、水分をとり、十分に睡眠をとることが出来ます。そうなれば子供さんの体力は回復し、風邪を治すことができます。

人が病気になるのは、体力が低下するからです。ですから病気を治すには、その低下した体力をもう一度回復する以外にないのです。この時お薬を使えば身体が楽になり、体力を回復する際のきっかけになるのです。もちろんお薬そのものは決して

病気を治せません。しかしお薬を使えば血糖値の高い方は血糖が下がり、血圧の高い方は血圧が下がり、また癌の方は癌の病巣が縮小し、肺炎の方は肺の陰が縮小します。その間に自分でしっかりと体力の回復を図り、病気を治癒（ちゆ）させることができます。

体力が病気を治す

病気が起こる時の体力の低下とは、自己防御力の低下のことと意味します。改めて人が病気になるのは、自己防御力の低下です。しかし通常自己防御力の低下があっても、何ら自覚症状はありません。ですから年に一回程度は「自己防御力診断」を受けなければなりません。ところで自己防御力が低下したら、即座に病気が起こるのかといえば、そうではありません。通常自己防御力が低下して一〇年、二〇年、三〇年という歳月を経て病気になるのが著

当然ですが、自己防御力の低下が著

薬・手術・放射線治療の実施

病状の改善

還元電子治療

早める

体力（自己防御力）の回復

病気の治癒

時間をかけて治す

しいほど、短い年数でも病気が起こりますし、反対に自己防御力の低下が僅かなら、長い年数でも病気は起こりません。ですからできるだけ子供さんの頃から、自己防御力を高めておけば、たとえ九〇歳を越えても病気にならないのです。

$$\text{病気の発症} = \text{自己防御力の低下度} \times \text{年数} \times a$$

【堀口裕先生プロフィール】北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院、現在は理事長兼院長を務める。長年に亘り、空気中のネガティブイオンに関する生理的作用を研究、独自に開発された細胞内検査と還元電子療法を駆使した、根元（ねもと）医療という新しい医療を推進し、国内外で活躍している。



度（朝、昼、夕、寝る前）を目安に行って下さい。もちろんすでに病気の人は、それ以上の治療回数を行って頂いても構いません。どうか生涯健康で楽しい人生を過ごすために、全力で自己防御力を高めましょう。

